

Reserve the Date!

2012年2月7日

「RAINBOW FOR JAPAN KIDS チャリティ・トーク・ライブ」

開催のお知らせ

(別添)ナデシコ・クラブによるさとう宗幸氏へのインタビュー&さとう氏近影

<2012年2月7日-ホノルル>

2012年3月25日(日)の午後5時より、ハワイコンベンションセンターに於いて、ハワイシニアライフ協会の主催で、「RAINBOW FOR JAPAN KIDS チャリティ・トーク・ライブ」が行われることになりました。

このイベントは東日本大震災の被害に遭った子どもたちのための教育支援プロジェクト、「RAINBOW FOR JAPAN KIDS(レインボー・フォー・ジャパン・キッズ)」のチャリティ活動の一環として実施されるもので、同プロジェクトとパートナーシップを組む宮城県仙台市の一般社団法人「みやぎびっきの会」の代表理事であり、ミュージシャン&TVパーソナリティーのさとう宗幸(さとう・むねゆき)氏と、同会理事で同じくミュージシャンの小柴大造(こしば・たいぞう)氏が出演、パフォーマンス&トークで被災地の今を伝えるイベントを開催します。地元ハワイからは、MANOA DNAが登場。また、レインボー・フォー・ジャパン・キッズと地元の子どもたちの合同合唱も行われる予定です。このイベントに寄せられた寄付金は、ハワイ日米協会にRAINBOW FOR JAPAN KIDSの活動資金として贈られます。



さとう宗幸氏

同日午後3時から、メディア関係者のために、さとう宗幸さんとの質疑応答の時間が設けられます(日英同時通訳あり)。参加申し込み、お問い合わせは、ハワイシニアライフ協会ナデシコ・クラブnadeshiko@hawaiiseniorlife.orgまでどうぞ。

なお、ナデシコ・クラブによる、さとう宗幸氏へのインタビューおよびオフィシャル画像を添付しておりますので、ご参照ください。

●RAINBOW FOR JAPAN KIDS チャリティ・トーク・ライブ

日程:メディア向け質疑応答タイム:2012年3月25日(日)午後3時~

チャリティ・トーク・ライブ:2012年3月25日(日)午後5時~

場所:ハワイ・コンベンションセンター、シアター310

イベント閲覧についての詳細は、ナデシコ・クラブnadeshiko@hawaiiseniorlife.orgへお問い合わせください。

主催:ハワイシニアライフ協会

後援:日本航空、ハワイ日米協会、みやぎびっきの会

協力:ハワイシニアライフ協会ナデシコ・クラブ、First Hawaiian Bank, Studio Rim Hawaii 他。

参考ウェブサイト:

びっき子ども基金(みやぎびっきの会)ハワイ・レインボー・キッズ・プロジェクト: <http://bikkifund.net/hawaii.html>

RAINBOW FOR JAPAN KIDS Project: <http://www.jashawaii.org/jpnaid1.asp>

さとう宗幸氏へのインタビュー

2012年2月7日



さとう宗幸氏

ハワイシニア協会ナデシコ・クラブは、宮城県仙台市の一般社団法人「みやぎびっきの会」の代表理事であり、大ヒット曲「青葉城恋唄」を持つ歌手でTVパーソナリティーでもあるさとう宗幸(さとう・むねゆき)氏へのインタビューを行いました。さとう氏の人となりをお伝えできればと思っています。

ハワイシニア協会ナデシコ・クラブ=以下ナデシコ:

このたびは私どものインタビューにご協力いただきどうもありがとうございます。まず最初に、「みやぎびっきの会」について伺いたします。さとうさんはどのような経緯で「みやぎびっきの会」をはじめられたのでしょうか？ 震災前は同会でどのような活動をなさっていましたか？

さとう宗幸氏=以下さとう:

8年前東京で宮城県出身のアーティスト(中村雅俊さん・稲垣潤一さん他)と飲食の機会があり、「ふるさとでチャリティーコンサートを!」という話となり、その翌々年に実現。1回目の終了後にメンバーから継続の話が出て、会をの名称を検討、「ふるさとに帰って(かえる)恩返しをする・・・」「壊れたものを元に戻す(元にかえる)・・・」などの理由を以って「びっき(東北での方言で「蛙」)の会」と命名しました。当コンサートは翌年より毎年の春開催。メンバーが殆どアーティストということもあり、収益金の殆どは県内の中学校の楽器の修繕に充てています。既に県内100校近くの学校を支援。余剰金は県内外の有事の時のドネーション(たとえば中越地震の時には、即刻義援金支援)などに充ててきました。

ナデシコ:

震災後の「みやぎびっきの会」の活動についてお聞かせください。

さとう:

震災直後に全員の意思として、即刻支援を決定。とりわけ子供支援に特化して、子供たちへの物的・心的支援のために「びっきこども基金」を立ち上げ、レッドクロスなどの巨大支援団体に頼らず、直截的に子供たちの表情の見える中で支援続けてきました。以来「基金」は巨大支援団体の使途に懸念を持つ個人・法人の寄付金で運営させていただいています。更に震災後、「みやぎびっきの会」主催で6月7日に渋谷「CCレモンホール」でチャリティーコンサート(さだまさし、谷村新司氏他出演)を開催。また国内各地で支援イベントやコンサートが開かれ、その収益金の一部が「びっきこども基金」の運営を支えてくれております。また7月には心的支援として、ハワイのレインボー・フォー・ジャパン・キッズ委員会とパートナーシップを組み、津波被災地の中学生20名と共にハワイを訪問。これを機会に今後の物的支援に加え、心的支援の重要性を認識。これからは心的支援に重きを置いて活動していきたいと考えているところです。

ナデシコ:

ハワイ・レインボー・キッズ・プロジェクト(Rainbow for Japan Kids Project)で、たくさんの被災地の子どもがハワイを訪問していますが、さとうさんの目から見て、ハワイに来て子どもたちはどのように変わったと思いますか？ なにか忘れられないエピソードなどはありますか？ - Next page

- Continue

さとう:

当時ほとんどの中学生は「避難所」での生活の中でした。津波を目の当たりにしており、その悲惨な光景が日夜脳裏を駆けめぐり、不自由な生活および教育を強いられていたと思われ、将来的ビジョンが失せている頃だったと思われ。ハワイでの10日間、プロジェクトの皆さんの心温まるホスピタリティーに、当初引っ込み思案で寡黙だった殆どの子供たちに、程なくして本来の笑顔が見られたことは驚きでした。そのような中で、自らの将来を語ってくれた少年は「いずれ医者になって地元で貢献したい」と言ってくれました。その子は帰郷後地元産の魚を送って来てくれました、この正月も元気な年賀状くれました。プロジェクトの奏功と認識しております。

ナデシコ:

今回は、プロジェクトの一環としてハワイでチャリティ・トーク・ライブをなさいますが、そのイベントに向けての意気込みを語っていただけますか？

さとう:

時の経過と共に国内外の支援意識が希薄になっていってしまうのは致し方ないことと思いつつも、被災地の現状を知るたびに被災されている皆さんに寄り添い、そして常に向き合った支援の必要性を実感しております。常日頃口癖のようになっておりますが、「避難所」が全て閉鎖された時が復興の始まり、「仮設住宅」が全て無くなる時が「ふるさと再生」の第一歩と思っております。そのように考えると長い支援が必要です！いわんやその中で将来に夢を抱く子供たちにおいてをや！その被災地の現状を皆さんにお伝えしたいと思っております。

ナデシコ:

さとうさんの人生のモットー、座右の銘を教えてくださいませんか？

さとう:

「雪月花時 最想友」(人間一人で生きられるものでもなければ、一人で生きるものでもなく、いつも多くの友・仲間と関わり支えあっているもの。)

ナデシコ:

2012年度の活動予定をお聞かせください。

さとう:

17年間継続している仙台での月～金曜日TV番組「OH! バンデス」(日本テレビ系列『ミヤギテレビ』の15:50-17:50)が今年も続く予定で、これが軸となつての活動かと。例年の如く主に土曜・日曜の国内コンサート活動(年間30本程度)にも精力的に…と。且つ「残された人生は、ふるさと再生に尽くす」と公言、被災地に向けての支援をライフワークに！

ナデシコ:

お忙しいところ、どうもありがとうございました。これからのさらなるご活躍をお祈りいたします。